

現代短歌が記憶した震災

梶原さい子歌集『リアス／椿』から

2015.06.03 東洋大学ゼミナール

1

森尻理恵

産総研 地質調査総合センター 地質標本館

東洋大学経済学部非常勤講師

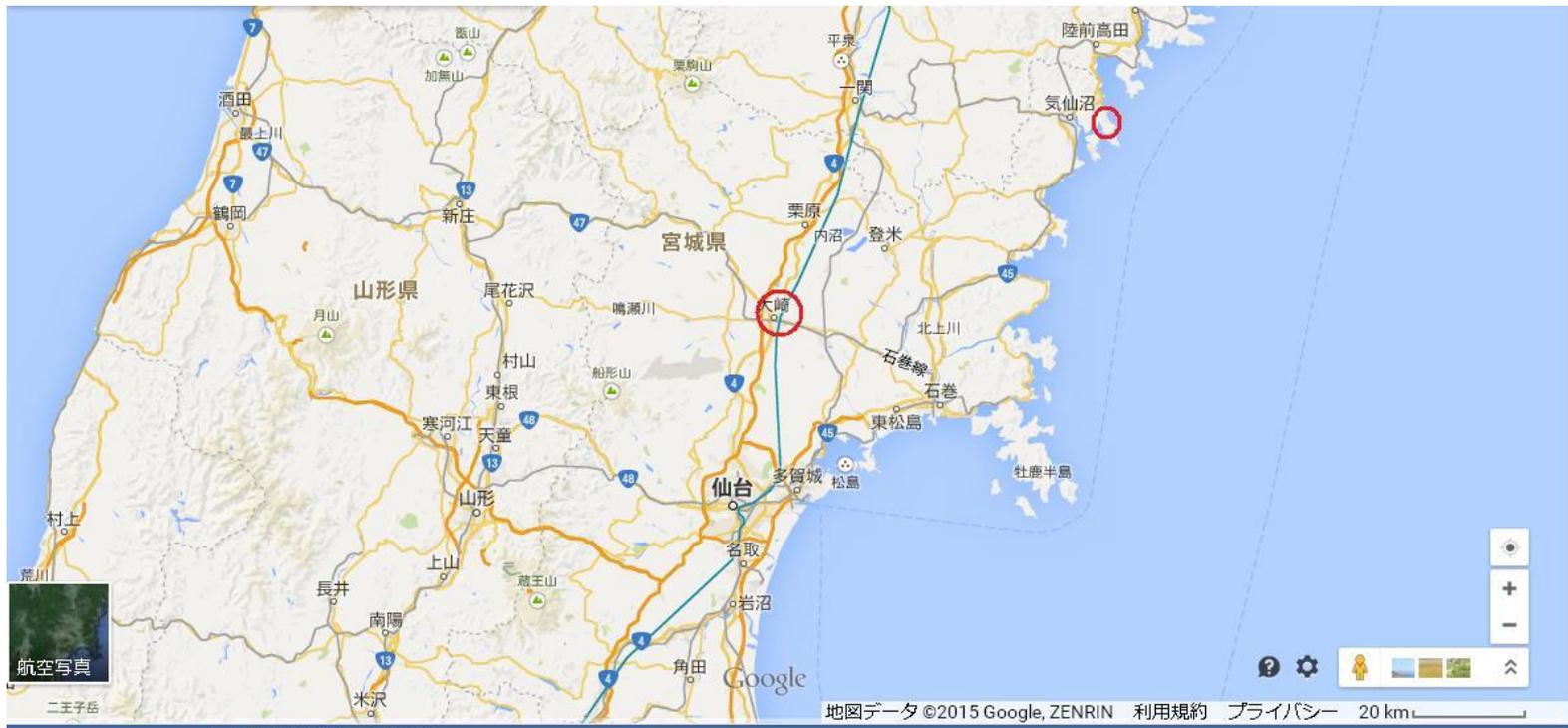
その時—2011年3月11日 より

- 来る。来る、来る、重き地鳴りにこみ
上ぐる予感なりただ圧倒的な
- うちつけに投げ出されをリマゲカツ
プがパソコンが入試資料が跳んで
- 倒れうるものはたふれて砕けうるも
のは砕けて長き揺れののち

梶原さい子さん

- 1971年宮城県気仙沼市生まれ
- 実家は早馬神社
- 歌人・宮城県の高校で国語の教師をしている
- 『リアス／椿』(2014年5月発行)は2015年第11回葛原妙子賞を受賞

梶原さんは大崎市(震度6強)で被災。気仙沼市(震度6弱)の実家が15Mの津波被害に遭ったことを知る。実家には両親と弟一家、100歳近い寝たきりの祖母がいた。急ぎ帰宅したら、母親が行方不明になっていた。(後日避難所において無事が確認された。)



○ 校庭に地割れは伸びて雪の飛ぶ日暮れ
を誰も立ち尽くしをり

○ 「釜石に六メートルの津波来る」そのち
をもう聴きえぬ知らせ

○ 津波、来てゐる。確かに、津波。どこまで
を来た。誰までを、来たのか。

その時—2011年3月11日 より

東日本大震災について

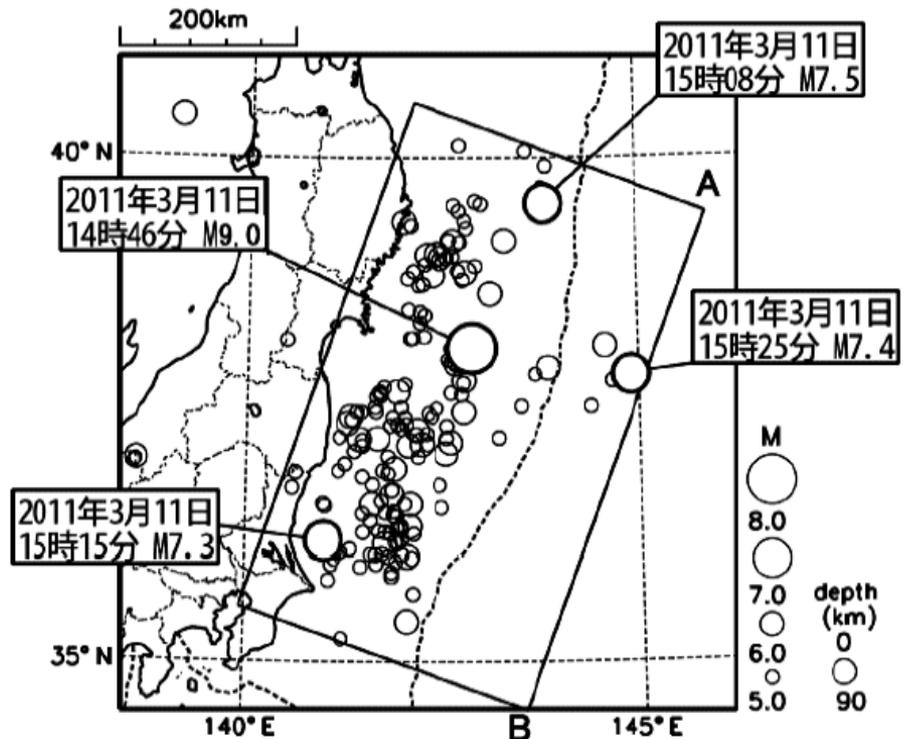
- 2011年3月11日14時46分頃に三陸沖を震源とするMw9.0の巨大地震が発生した。
- この地震により宮城県栗原市で震度7、宮城県、福島県、茨城県、栃木県で震度6強など広い範囲で強い揺れを観測した。東京の大手町でも震度5強。
- また、太平洋沿岸を中心に高い津波を観測し、特に東北地方から関東地方の太平洋沿岸では大きな被害があった。

東日本大震災について

- 気象庁はこの地震を「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」と命名した。
- 気象庁が3月11日に命名した「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」によって、もたらされた震災の呼び名を「東日本大震災」とすると持ち回り閣議で決定した。(4月1日発表)

気象庁による震央分布

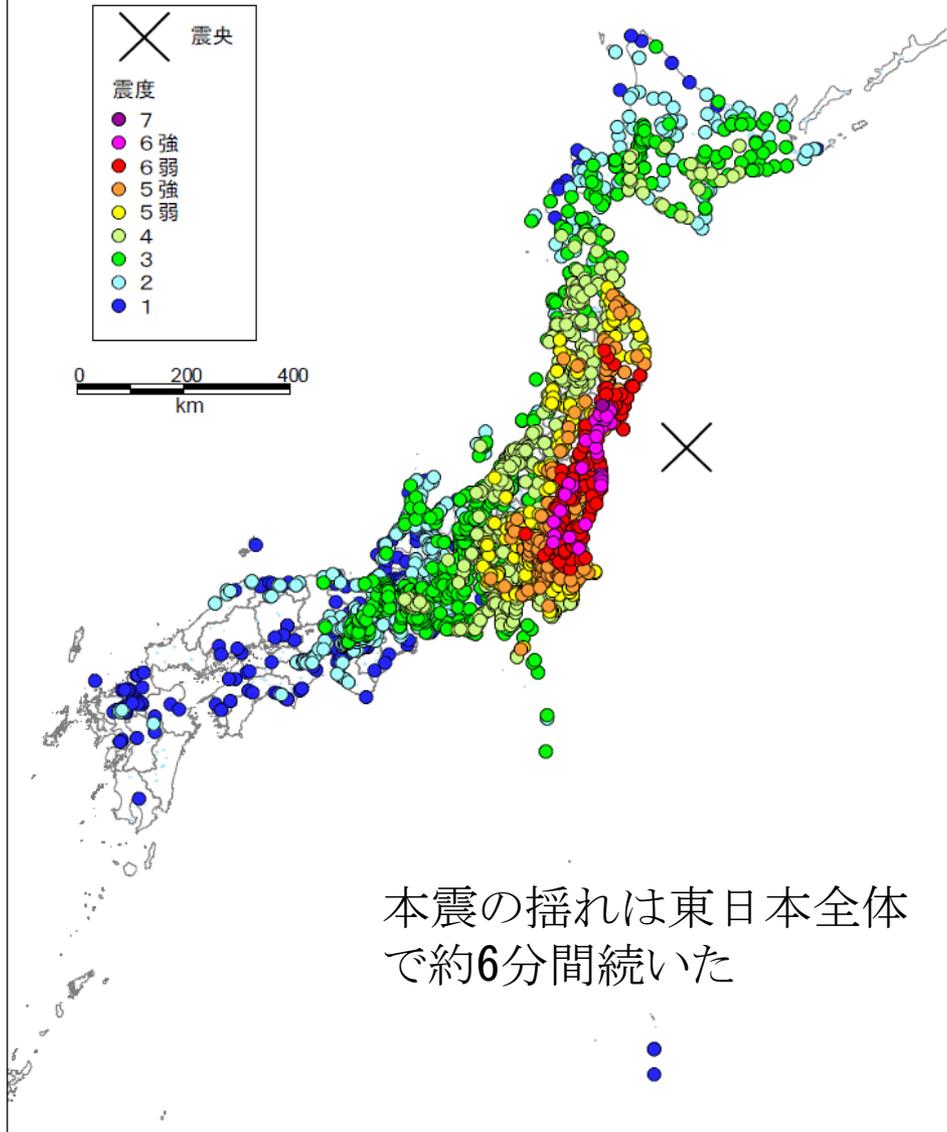
(2011年3月11日12時00分~13日07時00分、深さ90km以浅、 $M \geq 5.0$)



丸の大きさはマグニチュードの大きさを表す。
M7.0以上の地震に吹き出しをつけている

- 連動型の震源
 - 大きな地震が他の大きな地震を誘発した
1. 14時46分Mw9.0(宮城県沖)
 2. 15時08分M7.5(岩手県沖)
 3. 15時15分M7.3(茨城県沖)

2011年3月11日 14時46分 平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震
北緯：38.0° 東経：142.9° 深さ：約24km（暫定値）M：9.0（暫定値）

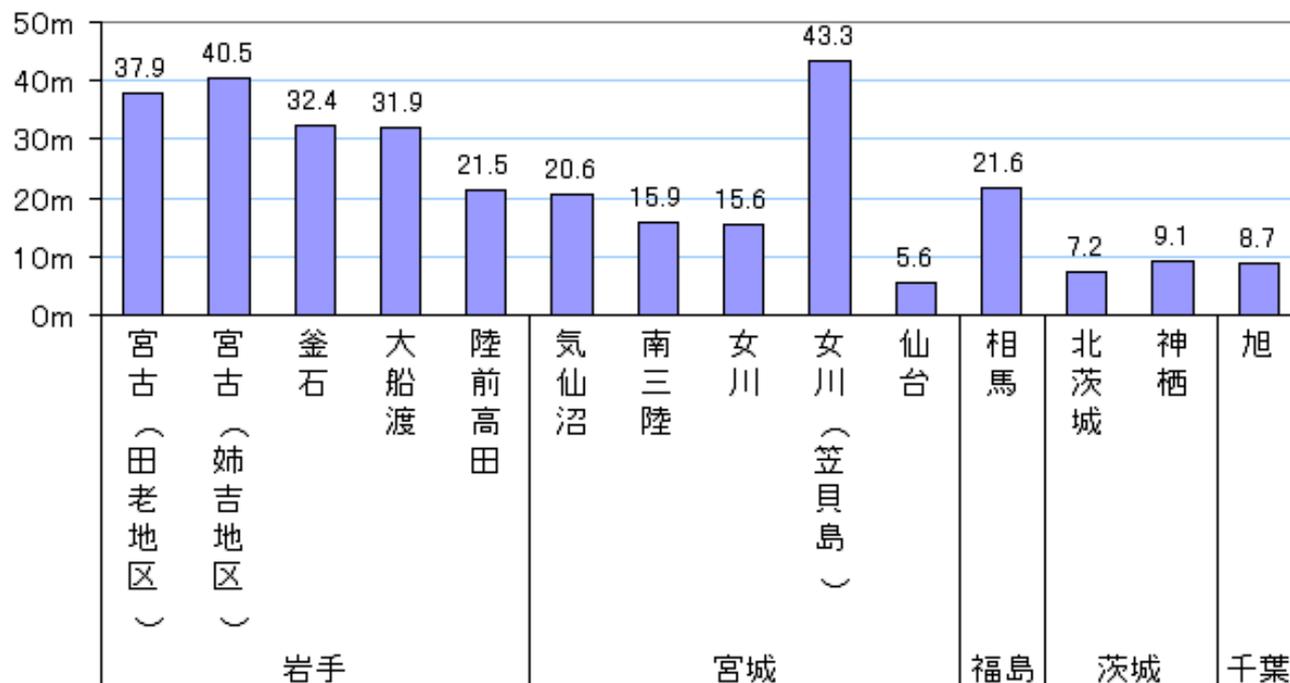


平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震 震度分布（気象庁）

震度7：宮城県栗原市
震度6強：宮城県大崎市ほか
震度6弱：宮城県気仙沼市、
茨城県つくば市など

津波被害

東日本大震災で確認された津波の高さ(遡上高)



(注) 東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会調べ。ただし、宮古(田老地区)は都司准教授らの東京大地震研究所調査、宮古(姉吉地区)は「東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ」の調査、女川町(無人島・笠貝島)は東京大地震研究所の都司嘉宣准教授の調査による。

(資料) 東京新聞大図解「大津波」2011.7.3、毎日新聞2011.4.24、2011.7.16、河北新報2012.3.17

東日本大震災（平成27年3月1日現在）

- 大きな被害が3種類

1. 地震による揺れ(栗原市で震度7)

2. 地震による津波(宮古の潮上高40mとは海拔15mにある東洋大学2号館の7-8階まで波が来たことになる。宮古港では15時1分に1m24cmの引き波を観測し、第一波の到達時刻と特定された)

3. 地震による原子力発電所の被害

東日本大震災（平成27年3月1日現在）

○ 人的被害

- ✓ 死者 19,225人
- ✓ 行方不明者 2,614人
- ✓ 負傷者 6,219人

○ 住家被害

- ✓ 全壊 127,830棟
- ✓ 半壊 275,807棟
- ✓ 一部破損 766,671棟
- ✓ 床上浸水 3,409棟
- ✓ 床下浸水 10,217棟

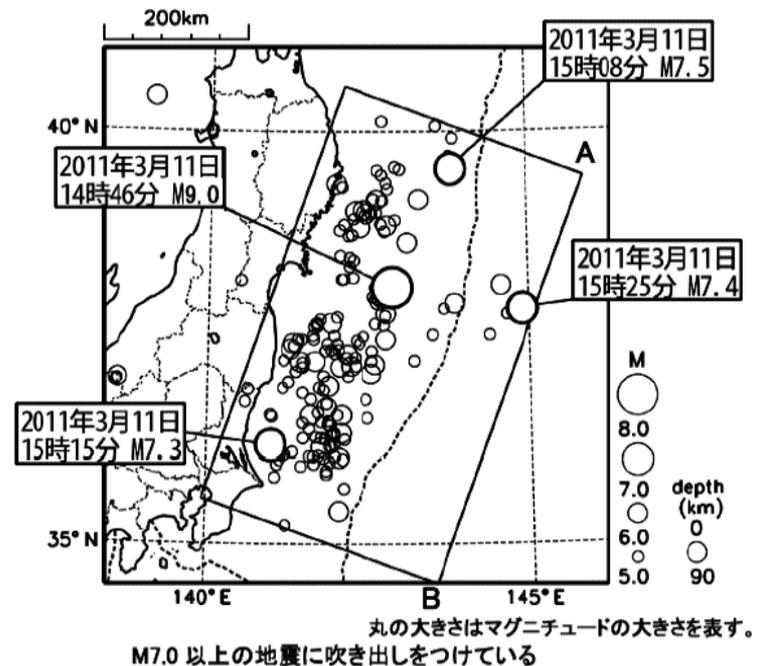
○ 非住家被害

- ✓ 公共建物 14,398棟
- ✓ その他 83,304棟

念のために確認です！

- 震源：破壊の始まりの点
- 断層の破壊が始まった震源地は三陸沖だが、最終的に断層が破壊した震源域は日本海溝下のプレート境界面に沿って南北に長く、岩手県沖から茨城県沖までの南北約500km、東西約200km、深さ約5km - 40kmの範囲で、合計約10万km²の広範囲に及ぶ

(2011年3月11日12時00分～13日07時00分、深さ90km以浅、M \geq 5.0)



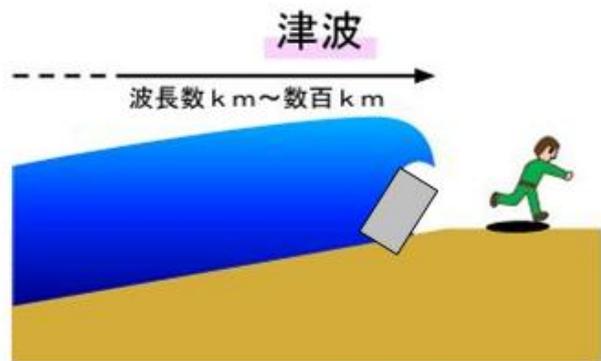
念のために確認です！

- マグニチュード：地震のエネルギーの関数
- 通常気象庁で出すマグニチュードは地震波の振幅を使うので巨大地震に対応していない。今回は地震のモーメントから計算されたマグニチュードである
- 震度：観測点の揺れの大きさ
- 気象庁で定めている基準で最大は震度7

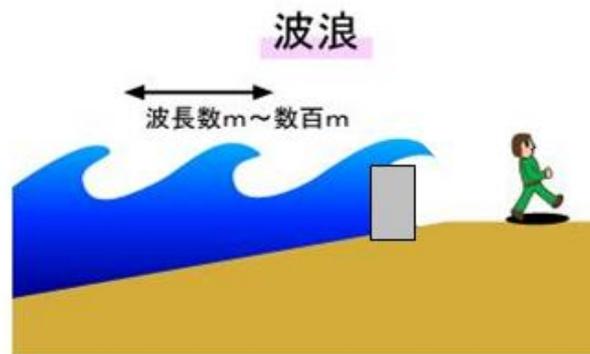
波浪と津波

- **波浪**: 海域で吹いている風によって生じる波浪は海面付近の現象で、波長(波の山から山、または谷から谷の長さ)は数メートル~数百メートル程度。
- **津波**: 海底の地殻変動によって生じる。波長は数キロから数百キロメートルと非常に長く、これは海底から海面までのすべての海水が巨大な水の塊となって沿岸に押し寄せる。

2015/04/29



巨大な水の壁となって長時間力が加わる
津波は、陸上のものを破壊しながら内陸
まで一気に浸水する。



津波と高さが同じでも、波浪は波長が短い
ため一つ一つの波により加わる力は小さく
沿岸で砕け散る。

津波は20CMで注意報

- 津波波高と被害程度(首藤(1993))を改変)
- 津波の高さが0.2mを超えると、横方向の海水の動き(流速)が0.3m/秒を超える。
- 海水浴場の安全基準としては、0.2~0.3m/秒程度以下が適当と言われており、0.3~0.35m/秒程度で遊泳注意・部分禁止となることが多い。

波高(m)	1-2	2-4	4-8	8-16	16-32
木造家屋	<u>部分的破壊</u>	<u>全面破壊</u>	<u>全面破壊</u>	<u>全面破壊</u>	<u>全面破壊</u>
石造家屋	<u>持ちこたえる</u>	<u>持ちこたえる</u>	<u>部分的破壊</u>	<u>全面破壊</u>	<u>全面破壊</u>
鉄筋コンクリートビル	<u>持ちこたえる</u>	<u>持ちこたえる</u>	<u>部分的破壊</u>	<u>部分的破壊</u>	<u>全面破壊</u>

津波の破壊力の例

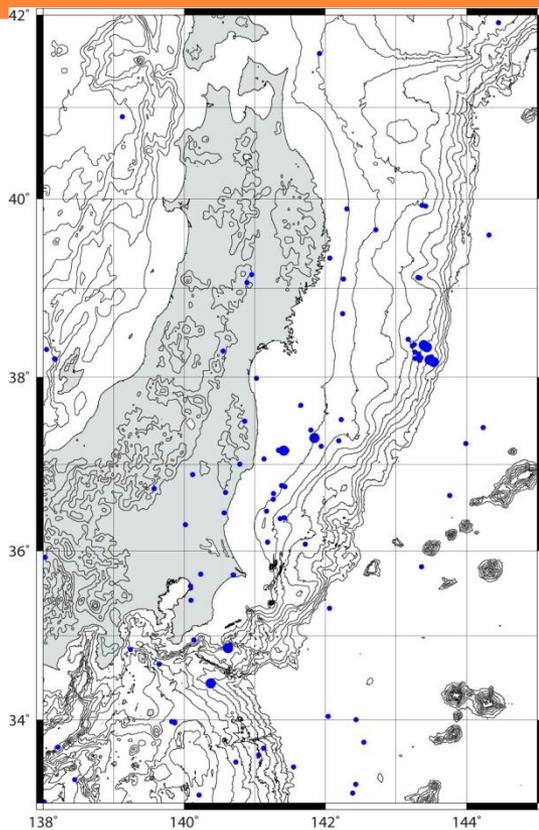


- 宮城県女川町の交番。
鉄筋コンクリート2階建ての建物が横倒しになっている。

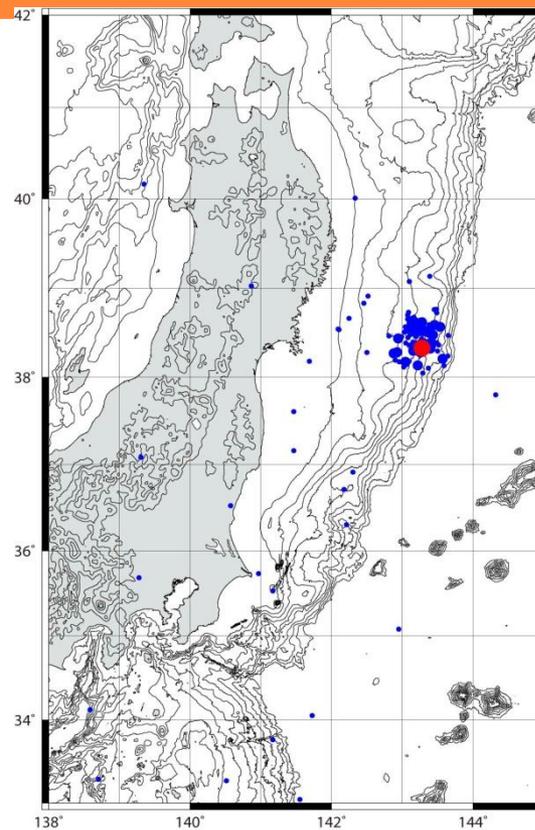
地震活動

青小:M3以上M5未満
青大:M5以上M7未満
赤 :M7以上

2011年2月の地震



2011年3月1日—10日

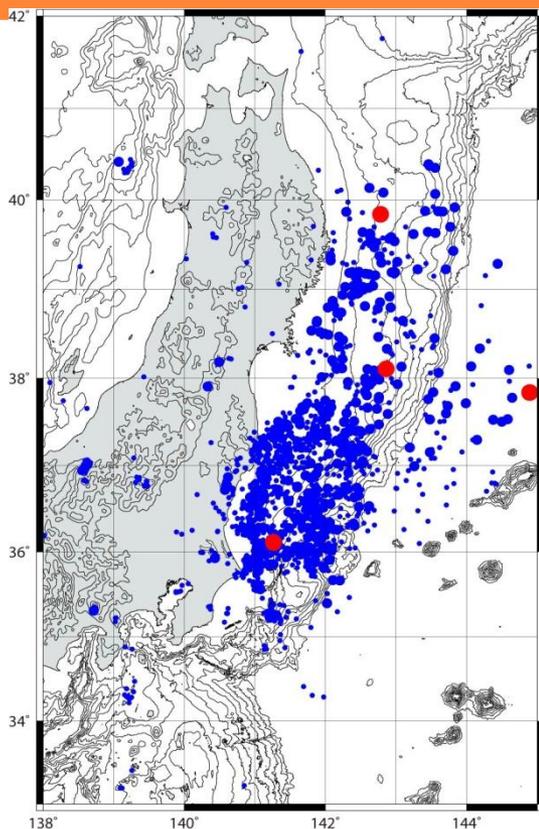


気象庁一元化震源による

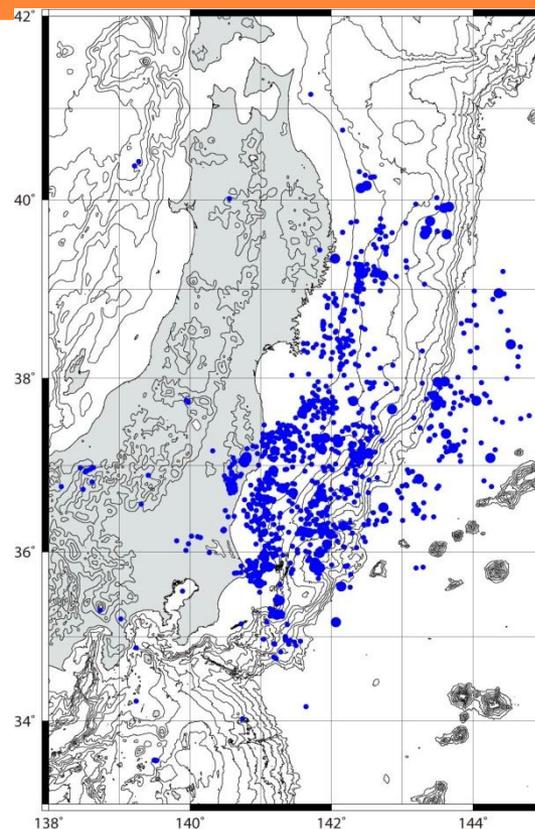
地震活動

青小: M3以上M5未満
青大: M5以上M7未満
赤 : M7以上

2011年3月11日ー16日の地震



2011年3月17日ー23日



唐桑町について

[HTTP://WWW.SANRIKUTOKUSEN.JP/USER_DATA/KARAKUWA.PHP](http://www.sanrikutokusen.jp/user_data/karakuwa.php)



唐桑町は古くから漁業を基盤としてきた。
鯉の一本釣り・近海マグロ漁の以前にもクジラ漁などを行っており、クジラを祭った鯨塚や藤浜貝塚(縄文)などがあり、季節ごとに色々な魚類を捕って生活をしてきた。
現在でも、町民の半数は、漁業に直接的、間接的にたずさわっている。

舟虫 より(震災に遭う前の唐桑を詠ったもの)

○ 潮鳴りのやまざる町に育ちたり梵字の
墓の建ち並びゐて

○ 御船霊(おふなたま)を入れにゆく朝
神主と船頭のみ密かなる業

○ おとうとを奪ひし海を生計(たづき)と
し淳君の腕太くなりけり

○ 女らの手具振り下ろす音響き岬のつけ
根の牡蠣剥き工場

○ エンジン音にて目醒めたり午前五時の港
を蹴つて舟は出て行く

東日本大震災の大津波により、海拔12メートルの高台に位置する神社にも15メートルの大津波が襲い、拝殿、社務所、宮司宅が約2.5メートル浸水し全ての道具を粉砕した。気仙沼市唐桑町の宿浦地区ではこの神社のみが残った。



○ 百度も波は来しとふそのたびに陸のかたちを大きく変へて

○ 甥つ子を二階の窓より投げて受けて山を上へと駆けのぼりたり(弟夫婦)

○ 地獄だと言ひてそのちおとうとの携帯電話は繋がらざりき

○ 半身を水に漬かりて斜めなるベッドの上につつがなき祖母

まぼろしの間口 より

○ お母さんお母さんと泣きながら車で行くところまでを行く

○ 跡形も無き町筋のまぼろしの間口を思ひ描かむとして

○ 安置所に横たはりたるからだだからだが
ス屋の小父さんもあたりけり

まぼろしの間口 より

短歌は記憶するー松村正直評論集『短歌は記憶する』より

- 短歌は時代を記憶する。人々の記憶をなまなましく封じ込めている。だから、短歌を読むことによって、時代の持つ雰囲気がまざまざと甦ってくるのだ。その中には歴史書や年表には残されていないものも多く含まれている。

記憶は細部が鮮やか(避難生活)

○ 配給のエビカツやつて来たりけり白
身の中に赤身の混じる(当日)

○ しのズボンば無えなあ 支給品の
山から何も取らず出て行く(三月下
旬)

○ 襦袢買ふために列なる雪の朝甥つ
子のおしめ祖母のおしめ(三月下旬)

○ 「津波きました逃げてくらさい」甥つ
子の繰り返したる大津波ごっこ(三月
下旬)

記憶は細部が鮮やか(被災者)

- ありがたいことだと言へりふるさと
の浜に遺体のあがりしことを(三月下旬)
- あらかたを流されながらそれでも
なほ人ら喪服を調へんとす(六月)
- 砂糖、酒、酢を混ぜて振る昼下がりに
蠅を捕ふる滋液づくりに(六月)
- 水なくて雪食ひし日々放射性物質
が降り積もるも知らず(八月)

記憶は細部が鮮やか(2011年)

- いそいそと出掛くる先はトイレなり
五ヶ月ぶりの家内(やぬち)の尿(ゆま
り)(八月)
- 従叔父はこなた従叔母はかなたの
湾の底 引き上げられて巡り逢ひた
り(八月)
- 貰ひ物のジャージにケチを付けたる
を怒鳴りてゐたり職員室に(十月)
- 立ち入りを禁ずる貼り紙が増えて
学校に濃き闇のスポンジ(十月)

潮を汲む より(秋祭り2011年10月)

- 家々の土台ばかりの残りたる浜辺の町の注連縄続く
- どれもこれも波の記憶を持ちながら調べられてゆく祭器なり
- 仮設住宅(かせつ)から仮設住宅(かせつ)へ輿は渡りたり遠の島門(しまと)をめぐるときに
- 御神輿を載せて海人船(あまぶね)津を発てば波なめらかに分かれゆきたり
- この板の下に彼らのあることをつくづく知りて誰も語らず

まなこ より 2012年12月

- あまたなる死を見しひとと見ざりしひととの時の経つほど引き裂かれゆく
- 震災詠はもういいぢやない 座布団の薄きの上に言はれてをりぬ
- 気温〇度水温一〇度小雪舞ふ浜に本年最後の搜索

○ 土台のみ残る敷地の片隅に根深の
みどり連なりて立つ

○ 向かうには火を焚く煙がらんだう
の野に立ちのぼり時に乱れて

◆ 根深……ネギの別名

胴 より 2013年10月 (歌集の終わり)

おわりに

- 短歌はその時の気持ちをぎゅっと閉じ込めることができる詩形→自分の時間に錘をつける、とも言う
- 昔から、恋の歌や挽歌(人の死を悼む歌)がたくさん詠まれて来た
- 出来事だけでなく気持ちも含めた記録になる
- 東洋大学では現代学生百人一首というのをずっと主催している
- 皆さんもぜひ、心にさざ波が立ったら短歌の中に封じ込めてみてください